

高等学校 地理歴史科（日本史B）学習指導案

指導教諭

教育実習生

1. 日時 2019年6月17日（月）3時限目 10:35～11:20

2. クラス 2年生 選択履修BD群（37名）

3. 場所 203教室

4. 教科書
- ①『詳説日本史B』（山川出版社）
  - ②『図説日本史通覧』（帝国書院）
  - ③日本史重要語句 Check List 2019
  - ※参考：『日本史用語集』（山川出版社）

- 教材・参考書
- ④笹山晴生『古代を考える 平安の都』（吉川弘文館、1991年）
  - ⑤宮坂宥勝『空海 生涯と思想』（筑摩書房、2003年）
  - ⑥坂上康俊『律令国家の転換と「日本」』（講談社、2010年）
  - ⑦川尻秋生『平安京遷都』（岩波書店、2011年）
  - ※その他、適宜参考書を用いることを想定している。

5. 単元名 教科書①の【第2章 律令国家の形成】「5 平安王朝の形成」のうち「唐風文化と平安仏教」

6. 単元観

本単元では、日本史における歴史時代の時代区分のなかで最も長い平安時代を扱う。この時代は、約400年の歴史のなかで大きく分けて3つの歴史的様相を見せる。1つ目は平安時代初期における律令国家体制の立て直し、2つ目は平安時代中期における摂関政治で栄華を極めた藤原氏による貴族政治、3つ目は平安時代後期における院政の成立と武士の勃興である。本時では、このうち1つ目の時期に育まれた文化（弘仁・貞観文化）を扱うこととする。

前単位時間では、10世紀までの政治動向と庶民の生活を大方みてきた。文化史の学習は独立的に扱われがちであるが、文化は政治や人々の暮らしと密接にかかわるものであり、両者の関連性を強く生徒に意識させる必要があると考える。本時では平安仏教がキーワードとなるが、日本に新しい仏教をもたらした最澄と空海の生い立ちや二人の関係を見ることで、いかにして新しい仏教を受容したのかを明らかにしたい。また、密教の世界観を知ること、それまでの顕教との違いを明確にしたい。他にも、空海と親睦の深かった嵯峨天皇、橘逸勢による書や、文章経国思想のもとで数多く編纂された漢詩文集の紹介を通じて、「徹底的な唐文化の受容」という弘仁・貞観文化の特色を理解させたい。そのため、出来る限り関連資料を用意し、生徒に実感を持った文化理解を促進させていく。

7. 生徒観

本群の生徒は明るく、授業が始まる前はおしゃべりが絶えないが、授業が始まると集中できるメリハリのあるクラスである。ただ、内容理解の不十分な生徒も多く、その点が課題である。つまづきを防ぐために、前時間とのとの繋がりを意識しながら理解度の向上に努めることが必要と思われる。

8. 指導観

用語の説明で終始せず、なるべく多くの資料を使用することによって理解度の向上につなげられるように努める。前項でも記したように、「密教とは何か」という点を生徒に理解させるのを主眼とする。「文化史は憶えることが多い」と苦手意識をもつ生徒は多いので、ビジュアル的に理解を深めさせ、文化史を得意分野にすることが本時の指導の要である。

なお、本時ではパワーポイントのスライドを用いて授業を展開する。グループワークなどを通して、密教が当時の日本で信仰が深まった背景を考察したいと考えている。

9. 単元の目標（評価の観点）

【知識・技能】

・最澄と空海の生い立ちや天台宗、真言宗の成立過程を学習し、それらが唐からの影響を強く受けていることを理解する。

【思考・判断・表現】

・最澄と空海、および天台宗と真言宗の比較を通して、両者の違いに気づき、それを自分の言葉で説明することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

・密教および密教芸術に積極的に関心を持つようとする。

10. 単元の指導計画

※ 部分が本時である。なお、本単元は4単位時間を用いることを想定している。

1	教科書①の【第2章 律令国家の形成】「4 天平文化」 能動的学習：『出雲国風土記を読んでみよう』
2	教科書①の【第2章 律令国家の形成】「5 平安王朝の形成」のうち「平安遷都と蝦夷の戦い」 能動的学習：『考古学に触れる』長岡京と難波宮
3	教科書①の【第2章 律令国家の形成】「5 平安王朝の形成」のうち「平安時代初期の政治改革」、「地方と貴族社会の変貌」
4	教科書①の【第2章 律令国家の形成】「5 平安王朝の形成」のうち「唐風文化と平安仏教」「密教芸術」 能動的学習：『人物に触れる』（最澄と空海） 『仏像鑑賞の仕方』

11. 本時の目標

- ・新しい仏教をもたらした最澄と空海、および密教とは何か、顕教との違いから理解させる。
- ・弘仁・貞観文化は、漢詩文集や書なども多くつくられた時代であることを知り、弘仁・貞観文化の背景には中国文化の積極的受容という性質があることを理解させる。

1. 本時の授業展開

時間	生徒の学習 (板書計画)	教員の指導	留意点・備考	授業評価															
導入	<p>プリントの受取</p> <p>※パワーポイントを用いた写真資料を見ながら学習する。</p> <p>※<input type="checkbox"/>はスライドの画面を示している。</p> <p><b>最澄と空海の肖像画を見る。</b></p> <p>◆平安仏教の開始</p> <table border="1"> <tr> <td>最澄</td> <td>圓祖</td> <td>空海</td> </tr> <tr> <td>伝教大師</td> <td></td> <td>弘法大師</td> </tr> <tr> <td>天台宗</td> <td>宗派</td> <td>真言宗</td> </tr> <tr> <td>比叡山</td> <td>總本山</td> <td>高野山</td> </tr> <tr> <td>延暦寺</td> <td></td> <td>金剛峯寺</td> </tr> </table> <p>この時間で学習すること</p> <p>◎最澄、空海はどんな人?</p> <p>◎天台宗・真言宗はどんな宗派?</p> <p>◎密教とは何か?</p>	最澄	圓祖	空海	伝教大師		弘法大師	天台宗	宗派	真言宗	比叡山	總本山	高野山	延暦寺		金剛峯寺	<p>プリントの配布</p> <p>【発問①】 「この肖像画は誰でしょうか」</p> <p>【解答】 「最澄、空海」</p> <p>【発問②】 「じゃあ、最澄と空海が開いた仏教の宗派とその総本山を教えてください」</p> <p>【解答】 「天台宗、真言宗、比叡山延暦寺、高野山金剛峯寺」</p> <p>「みんなよく覚えています。けど、最澄や空海がどんな人物で、天台宗や真言宗がどんな仏教宗派なのか、知らない人も多いのではないのでしょうか。」</p> <p>「教科書 P. 65、通覧 P. 82 です。開けてください。」</p> <p>【発問③】 「最澄はどこ出身ですか?」</p> <p>【解答】 「近江国 (現在の滋賀県、も余裕があれば)」</p> <p>「最澄は若いころに天台典籍を読んで中国の天台宗に関心を持つようになる。桓武天皇に天台教学を講義したことで信任を得て、実際に中国に渡り本場で勉強することができた。」</p> <p>【発問④】 「空海はどこ出身ですか?」</p> <p>【解答】 「讃岐国 (現在の香川県)」</p> <p>「実は、空海は最澄と同じ日に唐へ向けて出航しているんです。ただ、最澄は天台山に向かったのに対し空海は長安に向かったという点は違います」</p> <p>「空海は長期の留学生として出向いたのですが、優秀なあまり 20 年かけて学ぶものをたった 2 年で終わらせてしまった」</p> <p>【発問⑤】 「京都にある東寺は別名で?」</p> <p>【解答】 「教王護国寺」</p> <p>【ワーク】</p>	<p>教科書や通覧をできる限り読ませて、必要な情報を選び取る力を育てることを目標とする。</p>	<p>(授業全般)</p> <p>こちら側の発問に対してリプライを送るなど何らかの反応を示したか。</p> <p>また、こちらからの発問に対して積極的に取り組んだか。</p>
最澄	圓祖	空海																	
伝教大師		弘法大師																	
天台宗	宗派	真言宗																	
比叡山	總本山	高野山																	
延暦寺		金剛峯寺																	
展開 5分	<p>1. 最澄の生い立ち</p> <p>解答を記入する。</p> <p>分からない箇所、調べてみたい箇所を見つけたらアンダーラインでチェックさせる。</p> <p>2. 空海の生い立ち</p> <p>解答を記入する。</p> <p>分からない箇所、調べてみたい箇所を見つけたらアンダーラインでチェックさせる。</p>	<p>【ワーク】</p> <p>最澄と空海の生い立ちから、両者に共通すること、あるいは対立することを見つけ、プリントに書かせる。</p> <p>「はじめは桓武天皇に信任された最澄の方が台頭していた。しかし、…今度は空海が密教に関心を持っていた嵯峨天皇に重用される…」</p> <p>「最澄と空海の明暗を分けたのは何ですか?」</p>																	
10分	<p>両者を比較して、気づいた点があれば挙げてみよう!!</p> <p>3. 最澄と空海の関係</p> <p>これまでの学習を振り返りながら、空欄に言葉を記入する。</p> <p>弟子たちが天台宗の密教化を図り、真言宗に対抗していった。</p> <p>&lt;天台宗&gt;</p> <p>&lt;真言宗&gt;</p>	<p>円仁、円珍については口頭により説明する。</p> <p>光明真言を実際に読む。</p>	<p>法華経を中心経典とするのは天台宗と日蓮宗。</p>																

30分	<p>◎密教とは何か?</p> <p>◆密教とは何か?</p> <p>顕教→経典を読んで修行に臨む</p> <p>密教→加持祈祷で災いを避け、幸福を追求 (現世利益)</p> <p>※曼荼羅…密教の世界観を表した絵図。</p> <p>胎藏界曼荼羅…人々の持つ悟りの種を守り育てる慈悲を表現。</p> <p>金剛界曼荼羅…ダイヤモンドのような強固な知徳を表現。</p> <p>密教芸術の技法⇒神秘的な美しさを表現</p> <p>一木造…一本の木から仏像を造る</p> <p>翻波式…衣文のひだの凹凸を強調</p> <p>◆神仏習合</p> <p>・神仏習合…仏教と神道とが融合 (奈良時代以降～)</p> <p>Ex. 薬師寺僧形八幡神像…本来は姿形のない八幡神を僧侶に見立てる</p> <p>※写真は教科書②の P. 81 に載っている。</p> <p>※僧形八幡神像は、本来姿形をもたない八幡神を僧侶に見立てて偶像化した点において神仏習合の象徴として取り上げられている。</p> <p>◆唐文化の徹底的な受容</p> <p>○漢詩</p> <p>〔勅撰〕『後宮集』・『文華秀麗集』</p> <p>〔嵯峨朝〕『経国集』(淳和朝)</p> <p>〔空海〕『性靈集』、『文鏡秘府論』</p> <p>(漢詩の評論)</p> <p>〔菅原道長〕『菅家文草』</p> <p>○書道</p> <p>三筆…空海、嵯峨天皇、橘逸勢</p>	<p>「密教というのは秘密の呪法を用いるものなので、できるだけ人目に触れない山奥のようなひっそりとした場所が好まれました。日本にはもともと山岳信仰という独自の信仰があったのですが、それと密教が結びついたので。より厳かで、神秘的なものへと変わっていききました」</p> <p>「天平文化のときにはお話ししましたが、奈良時代に、日本で古くから伝わる神道と古墳時代に百濟から伝来した仏教が融合して、神仏習合がおきました。平安時代以降、神道と仏教がどんどん混ざるようになります。」</p> <p>【発問⑥】 「みなさんの学校の近く (ヒントは地名に隠されている!) にも、神仏習合の痕跡があります。何だと思えますか?」</p> <p>【回答】 「大田」</p> <p>「漢文の素養は官人にとって必要不可欠なもので、上手い漢詩をたくさん集めて、それをテキストにして漢文の能力を高めていこうとした。」</p> <p>「菅原氏一族の漢詩文集」</p> <p>「空海は嵯峨天皇に重用され、同じ遣唐使船に乗っていた橘逸勢とも仲が良かった」</p> <p>「教科書 P. 67 や通覧 P. 85 を参照しながら、問題に答えてください。周りとも相談してもかまいません」</p> <p>「前に答えを書きに来てもらうので、よろしく願います」</p>		
40分	<p>【ワーク】</p> <p>(1) 写真をみて、作品名を答えよ。</p> <p>①観心寺如意輪観音像</p> <p>②空生寺弥勒菩薩聖観音坐像</p> <p>③元興寺薬師如来像</p>			
45分	<p>(2) 質問に答える。</p> <p>④一木造</p> <p>⑤翻波式</p> <p>「教科書では教えてくれない! 仏像の秘密」プリントを配布する</p>			

高等学校 地理歴史科（日本史A）学習指導案

指導教諭

教育実習生

1. 日時 2019年6月17日（月）1時限目 8:45～9:30

2. クラス 2年生 選択履修N群（9名）

3. 場所 203教室

4. 教科書 ①『日本史A 現代からの歴史』（東京書籍）

②『図説日本史通覧』（帝国書院）

③日本史重要語句 Check List 2019

※参考：『日本史用語集』（山川出版社）

教材・参考書 ④牧原憲夫『民権と憲法』（岩波書店、2016年）

⑤中村隆英『明治大正史 上』（東京大学出版会、2015年）

⑥鈴木淳『維新の構造と展開』（講談社、2010年）

※その他、適宜参考書を用いることを想定している。

5. 単元名 教科書①の【3 立憲国家の成立】『2 松方財政と民権運動』

6. 単元観

本単元では、大蔵卿松方正義による「松方デフレ」の様相をみる。

大蔵卿の大隈重信の後を継いだ松方正義は、緊縮財政を実行する。当時、殖産興業を進めるために発行された国立銀行の不換紙幣や、西南戦争の戦費を調達するために発行された不換紙幣が大量に流通しインフレーションが起きていた。そこで、インフレの根源であった不換紙幣を回収し、紙幣価値を安定的にする必要があったのである。また、デフレ政策を施行して貨幣価値を上げることで、政府の実質的な歳入を増やすという目的もあった。松方は、酒造税や菓子税の導入、歳出の徹底的な削減などの政策をとることによって不換紙幣の回収に成功したほか、日本銀行を設立し、紙幣発行権を日本銀行に一本化することによって市中に出回るお金の量を調整し、経済の安定化に寄与した。また、銀本位制を施行することにより財政も安定した。

しかし、松方の積極的なデフレ政策は急激な物価の下落、国民所得の低下につながり、特に農村部で困窮する人々が増加した。農村部で生計を立てる自作農は、米価や繭価の急落により地租も払えず、なおかつ収入も減少するという二重苦に陥った。そのため、小作農に転身する自作農や、土地を手放して賃金労働者として都市部へ出向く自作農が増加した。その一方で、大地主は自作農の放棄した土地を集積し、寄生地主となって財力を強化するようになる。

松方デフレの影響で困窮した農村部の人々の一部は暴徒化して、それに加担する自由党员らとともに各地で反乱や暴動を引き起こす。福島県では、会津三方道路の建設を推進していた福島県令三島通庸に対し農民が反対運動を展開した。自由党员の河野広中がこれを支援したが、三島によって検挙された（福島事件）。また、河野広中の仇を討つことを企てた自由党员が、栃木県庁

の開庁セレモニーで三島通庸（栃木県令でもあった）を暗殺する計画を企てたが、計画が発覚し警察に追われる身となり、その報復として加波山で蜂起したという事件も起きた（加波山事件）。最大の農民反乱は、埼玉県で起きた秩父事件である。農民結党の困民党やそれを支援する自由党员が、警察前や役場前で暴動を起こした。この事件の背景には、秩父で盛んに行われていた養蚕に携わる農家たちの困窮があった。一時3000人以上の農民が役所等を占拠する事態となったが、ほどなくして鎮圧された。

以上の概観を通して、松方デフレは「貧富の格差が拡大した時期」と評価することができる。

7. 生徒観（見学後、適宜変更すること）

本学級は少人数であり、小ぢんまりとした印象の受けるクラスである。日本史Aを履修した理由もさまざまであり、全員が全員、入試科目として日本史を捉えているわけではない。そのため、学習に対する意欲の差が見受けられる。そのため、単に知識を享受するだけの授業だけでなく自らの力で知識を見出すことを目的とした授業を取り入れることにより、日本史という枠組みを超えた普遍的に必要な資質能力（具体的には、問題解決能力など）の育成をはかり、生徒の内面的成長を支援することが求められる。

8. 指導観

本単元は経済学の知識を必要とする。用語の解説だけでは、なぜ松方デフレを実施する必要が生じたのかを生徒に理解させることはできない。そのため、身近な例に置き換えるなどして生徒の理解をより向上させ、工夫の凝らした授業展開を進めていく必要があると思われる。

9. 単元の目標（評価の観点）

【知識・技能】

・1870年代後半～1880年代前半のインフレーションの原因と、松方デフレによる社会構造の変化を理解することができる。

【思考・判断・表現】

・教科書の記述だけで終わらずに、その記述の意味するところまでを考えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

・受け身の姿勢ではなく、能動的に学習に取り組もうとする姿勢を評価する。

12. 本時の授業展開

時間	生徒の学習(板書計画)	教員の指導(備考等)	授業評価
導入	◆小テスト	小テストを行う。	(授業全般) こちら側の発問に 対してリプライを 送るなど何らかの 反応を示したか。
展開 10分	プリントを中心に授業を展開する ◆明治時代初期の経済と政策 ＜当時流通していたお金＞ ・金貨貨幣…金貨や銀貨 ・兌換紙幣…金属貨幣と交換する義務あり ・不換紙幣…金属貨幣と交換する義務はない ●不換紙幣の乱発、市中に大量に出回る ・殖産興業のため、国立銀行が国立銀行券を大量に発券 ・西南戦争の戦費調達のため、明治通宝札を大量に発行 明治通宝の実物を見る インフレ状態に！	【発問①】「最大にして最後の士族反乱は？(西郷隆盛をリーダーに担ぎ上げて不平士族が起こした反乱は?)」 【回答】「西南戦争」 明治通宝の実物を見せる	発問に積極的に取 り組んだか。
20分	[何で困ったのか?] 地租改正により、政府の収入は一定額⇒実質の収入が少なくなる！ 黒板に図示する。 本物の千円と、おもちゃの千円の両方を見せる。 (本物の千円が兌換紙幣、おもちゃの千円が不換紙幣と仮定する) 政府「不換紙幣を回収し、価値が安定している兌換紙幣を流通させよう！」 ⇒松方正義大蔵卿による緊縮財政(松方デフレ) [松方正義はどんなことをしたのか?] ・増税(酒税、菓子税、醤油税) ・軍事費以外の歳出を大幅削減 ・官営事業の私下げ ・日本銀行の設立(1882年)、銀兌換券の発行(1885年)	【発問②】「インフレってどういうことが起きている?」 【回答】「物価の上昇、「お金」自体の価値の下落」 【発問③】地租改正で、地価の何%を税として納めていたかを答えさせろ。 【回答】「2.5% (1874年) ※1873年までは3%」 ・実質の収入が少なくなる、ということについて説明。 「例えば、地価4万円の土地があるとしましょう。地租は2.5%だから、税金は千円ですね。皆さんが、税金千円を納めるとして、今、手元には日本銀行の千円とおもちゃの千円があるとしみましょう。」 【発問④】「皆さんなら、どちらで税を納めますか?」 【回答】「おもちゃの方」 「そうですよね！なるべく、より価値のある方を残したいと思えますよね。そうすると、困るのは政府です。価値のあまりない、不換紙幣ばかりが入ってくるから。」 不換紙幣を次々と回収し、紙幣の発行機能を日本銀行のみにして価値の安定した紙幣を流通させたことを理解させる 1883年に、国立銀行から紙幣発行権を取り上げたことを口頭で説明する	発問に積極的に取 り組んだか。
30分	[松方デフレの結果] 経済の安定化 ・明治政府の収入が安定する ・会社設立のブームが起きる(企業勃興) 農村部の窮乏 ●米や生糸の生産農家に大ダメージ(物価の下落、収入が減る) ・自作農の減少 ⇒小作農か、都市へ出て賃金労働者になる ※大地主は自作農が放棄した土地を集積し巨大化 寄生地主の成長 ◆激化事件の発生 ●福島事件【福島県】 県令三島通庸による「会津三方道路」建設事業を批判した自由党員の河野広中を檢舉 ●秩父事件【埼玉県】(※最大規模の激化事件) 自由党員や農民集団(困民党)が蜂起するも鎮圧	不換紙幣の回収&日本銀行の銀兌換券発行により財政が安定化し、金利が低下したので投資家がお金を借りやすくなった。そのため、投資家が次々と新事業に着手したので、企業勃興が起きた、という流れを理解させる。 物価が下落して収入が減ったことで、地租を払う余裕がなくなることや、インフレ期に借金していた農民が、急激な貨幣価値の上昇のために借金の返済が困難になり、土地を捨てて都市へ流れたり、地主のもとで小作農として働いたりした、という流れを理解させる。 「薩摩出身の三島通庸は土木県令と言われるほど土木工事に積極的な人物で、会津三方道路という新潟、山形、茨城の三方に向かう道路を作ろうとした。ただ、強制的に住民を土木工事に駆り出したので反発が強かった。」 「秩父事件の背景には、養蚕農家の生活の困窮があります。秩父は、日本でも有数の生糸生産地でした。」	発問に積極的に取 り組んだか。
35分			
45分			